

1	57	28	1156
2	239	29	1159
3	478	30	1185
4	593	31	1192
5	603	32	1221
6	604	33	1232
7	607	34	1274
8	630	35	1281
9	645	36	1297
10	646	37	1333
11	663		
12	672		
13	694		
14	701		
15	708		
16	710		
17	712		
18	720		
19	723		
20	743		
21	784		
22	794		
23	894		
24	935		
25	939		
26	1016		
27	1086		

入試で漢字指定が多いため漢字で書けるようにしておくこと。ただし、※印のところは、ひらがなでも正解になります。

1	倭人 <small>わじん</small>	28	蘇我馬子 <small>そがのうまこ</small>	55	694
2	漢書地理志 <small>かんじょちりし</small>	29	青	56	持統 <small>じとう</small>
3	光武帝 <small>こうぶてい</small>	30	604	57	富本銭 <small>ふほんせん</small>
4	後漢書東夷伝 <small>ごかんじょとういでん</small>	31	役人	58	701
5	漢委奴国王 <small>かんのわのなのこくおう</small>	32	仏教	59	藤原不比等 <small>ふじわらのふひと</small>
6	邪馬台国 <small>やまたいこく</small>	33	日本書紀 <small>しよき</small>	60	国司 <small>こくし</small>
7	卑弥呼 <small>ひみこ</small>	34	隋書倭国伝 <small>ずいしよわこくでん</small>	61	郡司 <small>ぐんじ</small>
8	魏志倭人伝 <small>ぎしわじんてん</small>	35	630	62	里長 <small>さとおさ</small>
9	堺 <small>さかい</small>	36	犬上御田 <small>いぬがみのみ</small> 田 <small>た</small> 鋤 <small>すき</small> ※	63	和同開珎 <small>わどうかいちん</small>
10	仁徳 <small>にんとく</small>	37	中臣 <small>なかとみ</small> 鎌足 <small>かまたり</small>		
11	前方 <small>ぜんぽう</small> 後 <small>ご</small> 円墳 <small>えんふん</small>	38	口分田 <small>くぶんでん</small>		
12	五色塚 <small>ごしきづか</small>	39	公地 <small>こうち</small> 公民制 <small>こうみんせい</small>		
13	稻荷山 <small>いなりやま</small>	40	班田 <small>はんてん</small> 収授法 <small>しゅうじゆのほう</small>		
14	埴輪 <small>はにわ</small>	41	6		
15	百濟 <small>ひやくせい</small>	42	租 <small>そ</small>		
16	宋書倭国伝 <small>そうじよわこくでん</small>	43	地方		
17	氏 <small>うじ</small>	44	庸 <small>よう</small>		
18	臣 <small>おみ</small>	45	調 <small>ちよう</small>		
19	連 <small>むらじ</small>	46	国		
20	氏姓 <small>しせい</small>	47	木簡 <small>もっかん</small>		
21	武 <small>ぶ</small>	48	衛士 <small>ゑじ</small>		
22	蘇我 <small>そが</small>	49	防人 <small>さきもり</small>		
23	物部 <small>ものべ</small>	50	663		
24	四天王寺 <small>してんのうじ</small>	51	大津 <small>おおつ</small>		
25	法興寺 <small>ほうこうじ</small> ※	52	天智 <small>てんじ</small>		
26	法隆寺 <small>ほうりゅうじ</small>	53	壬申 <small>じんしん</small> の乱 <small>らん</small>		
27	摂政 <small>せっしやう</small>	54	天武 <small>てんむ</small>		

入試で漢字指定が多いため漢字で書けるようにしておくこと。ただし、※印のところは、ひらがなでも正解になります。

1	710	28	摂関 <small>せつかん</small>	55	政子 <small>まさこ</small>
2	平城 <small>へいじょう</small>	29	1086	56	執権 <small>しごけん</small>
3	国府 <small>こくふ</small>	30	後三条天皇 <small>ごさんじょう</small>	57	六波羅探題 <small>ろくはらたんたい</small>
4	古事記 <small>こじき</small>	31	白河天皇 <small>しらかわ</small>	58	国司 <small>こくし</small>
5	風土記 <small>ふどき</small>	32	院政 <small>いんせい</small>	59	地頭 <small>じとう</small>
6	日本書紀 <small>にほんしょき</small>	33	1159	60	御成敗式目 <small>ごせいばいしきもく</small>
7	723	34	太政大臣 <small>たいじょうだいじん</small>	61	泰時 <small>やすとき</small>
8	光明 <small>こうみょう</small>	35	日宋 <small>にっそう</small>	62	高麗※ <small>コリョ</small>
9	行基 <small>ぎょうき</small>	36	大輪田泊 <small>おおわだのどまり</small>	63	フビライ・ハン
10	渡来人 <small>とらいじん</small>	37	守護 <small>しゅご</small>	64	チンギス・ハン
11	743	38	地頭 <small>じとう</small>	65	1281
12	墾田永年私財法 <small>こんでんえいねんしざいほう</small>	39	征夷大將軍 <small>せいいたいしやうぐん</small>	66	弘安 <small>こうあん</small>
13	莊園 <small>しょうえん</small>	40	御恩 <small>ごおん</small>	67	石墨 <small>せきるい</small>
14	正倉院 <small>しょうそういん</small>	41	奉公 <small>ほうこう</small>	68	元寇※ <small>げんこう</small>
15	校倉造 <small>あぜくらづくり</small>	42	封建制度 <small>ほうけん</small>	69	時宗 <small>ときむね</small>
16	阿倍仲麻呂 <small>あべのなかまろ</small>	43	武家造 <small>ぶけづくり</small>	70	円覚寺(舍利殿) <small>えんかくじ しゃりでん</small>
17	鑑真 <small>がんじん</small>	44	笠がけ <small>かさ</small>	71	1297
18	唐招提寺 <small>とうしやうだいじ</small>	45	流鏑馬※ <small>やぶさめ</small>	72	永仁の徳政令 <small>えいにん とくせいれい</small>
19	ア・エ・キ	46	頼家 <small>よりいえ</small>		
20	桓武 <small>かんぶ</small>	47	実朝 <small>さねとも</small>		
21	1100	48	公暁※ <small>くきやう</small>		
22	藤原良房 <small>ふじわらのよしふさ</small>	49	1221		
23	1016	50	後鳥羽 <small>ごとぼ</small>		
24	藤原道長 <small>ふじわらのみちなが</small>	51	義時 <small>よしとき</small>		
25	藤原頼通 <small>ふじわらのよりみち</small>	52	隠岐 <small>おき</small>		
26	藤原不比等 <small>ふじわらの ふひと</small>	53	恩(御恩) <small>ごおん</small>		
27	関白 <small>かんぱく</small>	54	時政 <small>ときまさ</small>		

- 記述1 当時の日本列島が大陸とつながっていたこと。
- 記述2 この時代からすでに物々交換による交易が行われていたこと。
- 記述3 犬は人間が最初に飼った家畜であること。
- 記述4 ○食べ物を煮炊きすることで、それまで食べられなかった植物のくきや根を食べたり保存したりできるようになったこと。○食生活の変化が、それまでの移動生活から定住生活へと変わるきっかけになったこと。
- 記述5 貧富の差や身分の違いがない社会であったと考えられる。
- 記述6 ○は男性をあらわし、△は女性をあらわしていると考えられる。
- 記述7 弓矢が、狩りの道具から人を殺すための武器へと変わっていった。
- 記述8 古墳をつくらせた人物が強大な力をもっていたことを示すため。
- 記述9 古墳の周りや頂上。
- 記述10 朝鮮のすぐれた技術や、鉄などの資源を手に入れること。
- 記述11 この時代の大和政権の勢力が、九州地方までのびていたこと。
- 記述12 渡来人らによって、当時の日本と朝鮮との交流がさかんに行われていたこと。
- 記述13 豪族たちの勢力争いが多く、まとまりがなかった。
- 記述14 天皇がすべての権力をにぎる中央集権国家を目指した。
- 記述15 日本が、中国の家来であった今までの関係から、日本が対等な立場で国交を開こうとしたため。
- 記述16 蘇我氏の力が強く、天皇をしのぐまでになったことが天皇中心の政治のさまたげになったため。
- 記述17 女性の数が男性よりもはるかに多い。
- 記述18 女性の方が、税が軽いために男の子が生まれても女が生まれたと戸籍をいつわった。
- 記述19 口分田をすてて、貴族や寺社の土地に逃げ出す者が出てくるようになった。
- 記述20 どのような種類の特産物が、どこから都に納められていたかが分かる。
- 記述21 仏教には国を守る力があると考えられていたため、仏教の力によって国を治めようとした。
- 記述22 このころの仏教は、僧が一般の人々に教えを広めることを禁じていたこと。
- 記述23 水俣病のような水銀が原因の公害病が発生したと考えられる。
- 記述24 墾田永年私財法
- 記述25 新しく開墾した土地や田は永久に自分のものにしてよいとするもの。
- 記述26 貴族や寺社や地方の豪族たちが、農民たちを使って荒地や山林を切り開き、私有地を増やしたことで権力が大きくなり、天皇の力が弱まり、今までの公地公民制がくずれていったこと。

- 記述 27 仏教が朝廷に保護されて栄えたため寺院の勢力が強くなり、僧が政治に口を出すようになった。
- 記述 28 朝鮮半島の新羅との関係が悪化したため。
- 記述 29 このころの船はおもに風力で進むため、この季節には南東の季節風を利用することができた。
- 記述 30 山と川にはさまれた自然の城のような地形だったため。
- 記述 31 淀川を利用して、大阪湾や瀬戸内海に出ることができたため。
- 記述 32 自分の娘を天皇に嫁がせて、天皇の親戚になることで政治の実権をにぎっていった。
- 記述 33 それまで漢字を使うことがなかった女性たちが、かな文字を使うことで自分の考えや気持ちをより自由に表現することができるようになったため。
- 記述 34 朝廷の力が弱っていること。
- 記述 35 藤原氏の勢力をおさえて、政治の実権を取り戻すため。
- 記述 36 白河上皇が仏教をあつく信仰しており、僧たちの身勝手が許されていたため。
- 記述 37 鎌倉は三方を山に囲まれ、守りやすく攻めにくい地形であったため。
- 記述 38 鎌倉幕府の支配が全国におよぶようになった。
- 記述 39 農民は朝廷と鎌倉幕府の二つの政府によって支配されることになった。
- 記述 40 借金をしてまで戦ったのに、ほうびがもらえなかった御家人たちの不満をそらすため。
- 記述 41 武士にお金を貸す者がいなくなった。